

外套(マント)の縫い方 裏地なしバージョン

	<p>えりの外側の線で作ると女性用 内側の赤の線で作ると男性用になります</p>
	<p>模様に向きがある生地や、別珍やベロアなど毛並みのある布の場合は型紙の水色の点線で型紙を切り、1 cmの縫い代をつけて、前後に分けて作ると毛並みの向きをそろえやすいです</p>
	<p>裏地をつけたい場合 表地を取った後、型紙の紫の線で切り離すと裏地用の型紙になります。</p>

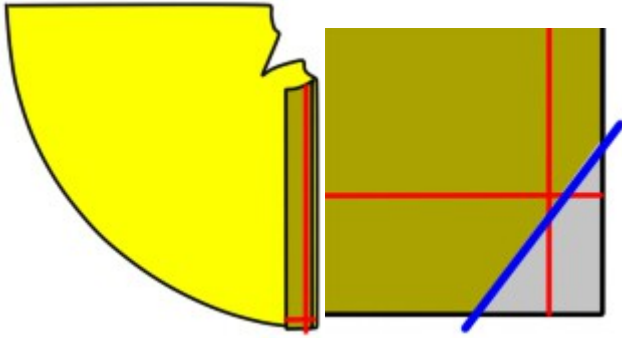
布の印のつけ方や
接着芯の貼り方は
縫う前の下準備
詳しく説明しているよ
まだ見たことがない
人は先に見てね!

→ 縫う前の下準備

■ 表側 ■ 裏側 ■ 接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。
型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。

お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。

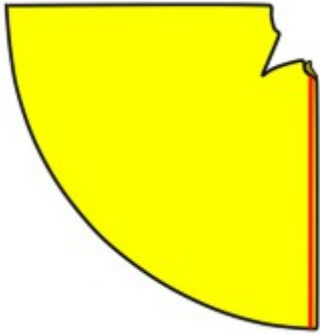


表を上にした前中心に裏が見えるように見返しを重ねてください。

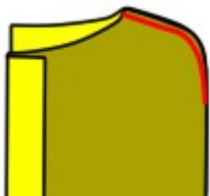
1cm幅で縫ってください。
見返しのすその縫い代を

2cm幅で縫っておきます。

表返す時に角が厚くなるので、角の「縫い目から2mm 離れた所を切り落とす。

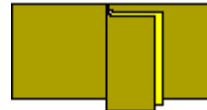


表側にひっくりかえして前中心を端から5mmの所を縫ってください。

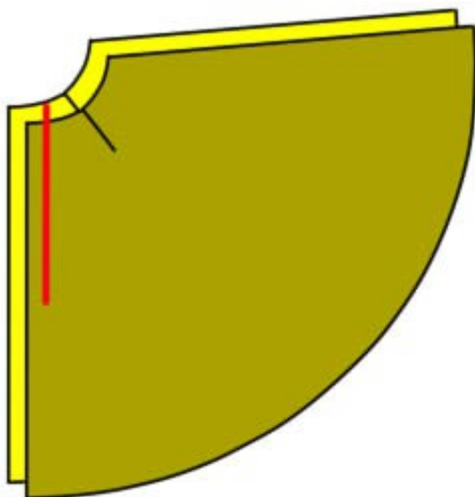


両肩を1cm幅で縫ってください。
イラストは片方だけですが実際は両方縫ってくださいね。

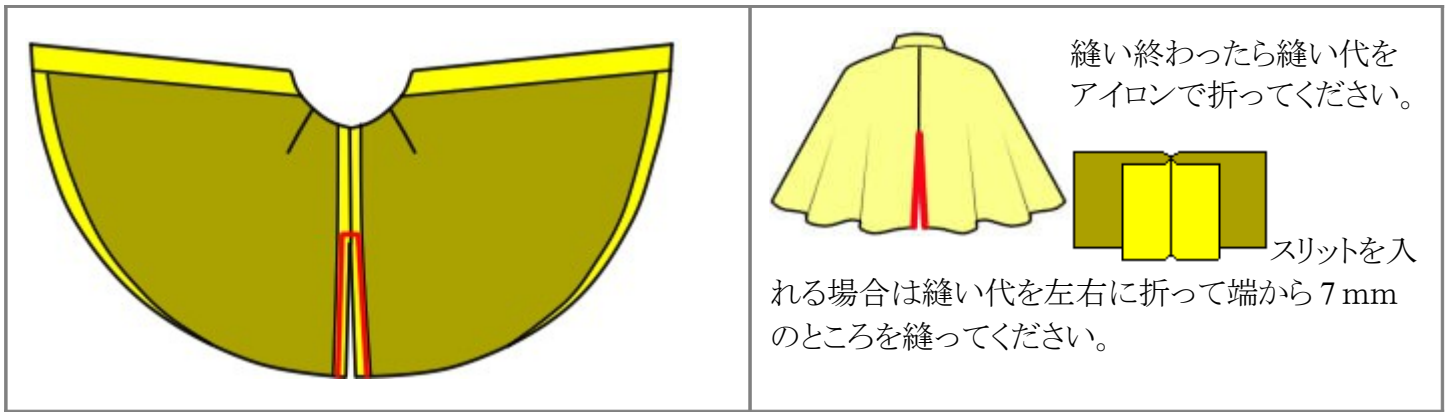
縫い代はうしろへ折って下さい。



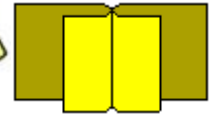
←裁縫用語で倒すと言います



2枚の身頃(胴体部分)を表同士が表になるように重ねて後中心(赤い線のところ)を1cm幅で縫ってください。

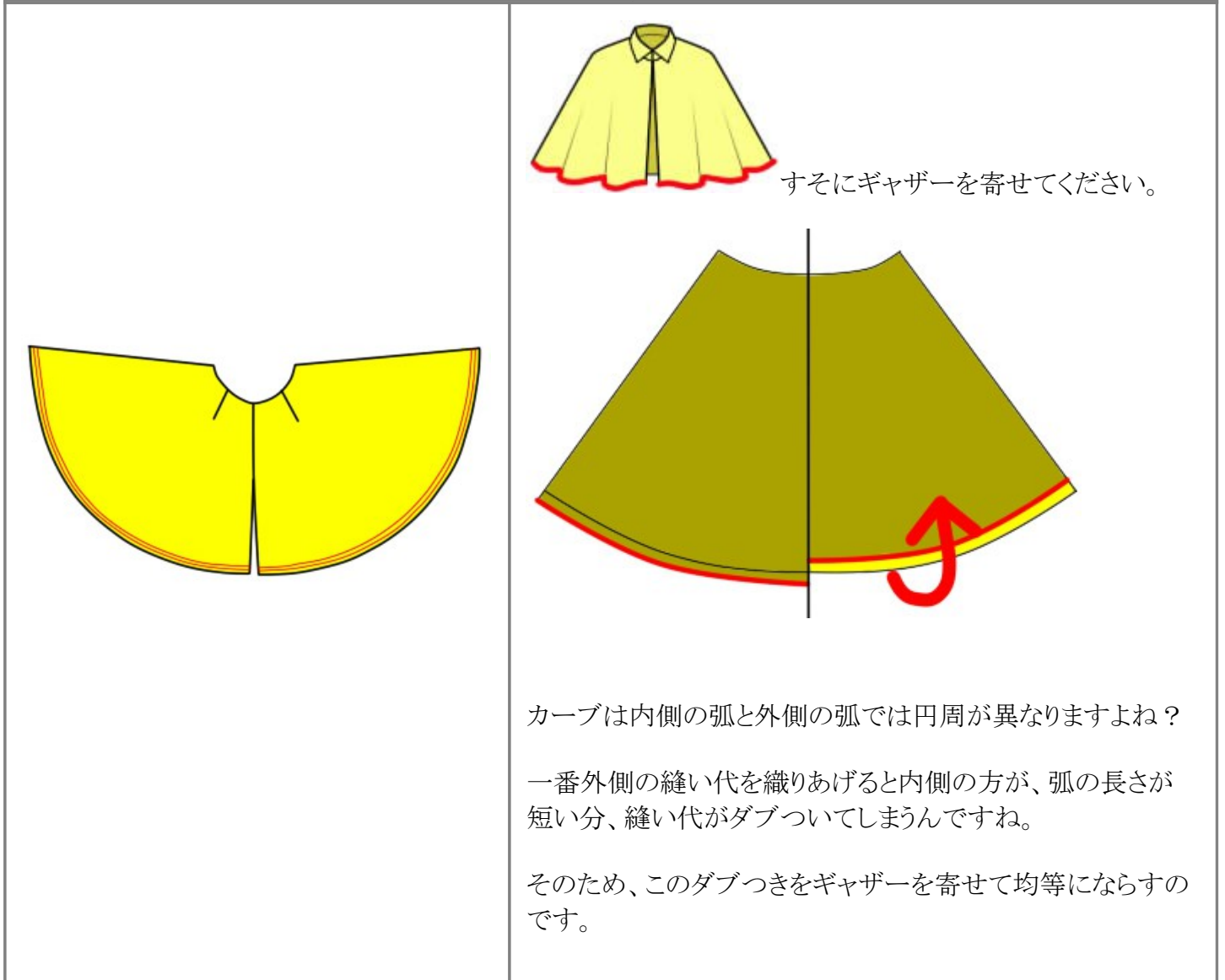


縫い終わったら縫い代をアイロンで折ってください。



スリットを入れる場合は縫い代を左右に折って端から7mmのところを縫ってください。

スリットを入れる場合は縫い代を左右に折って端から7mmのところを縫ってください。



すそにギャザーを寄せてください。

カーブは内側の弧と外側の弧では円周が異なりますよね？

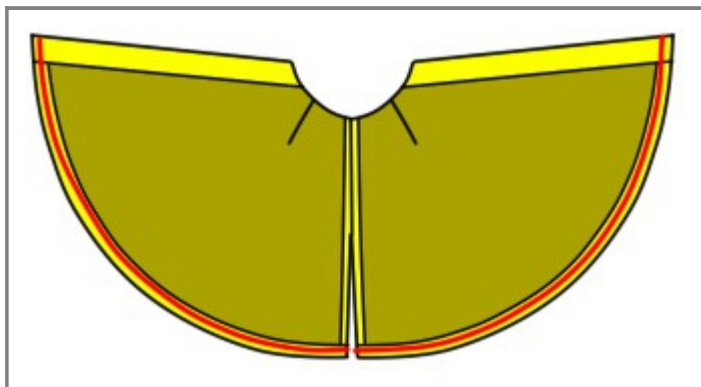
一番外側の縫い代を織りあげると内側の方が、弧の長さが短い分、縫い代がダブってしまうんですね。

そのため、このダブつきをギャザーを寄せて均等になりますのです。

ギャザーの寄せ方

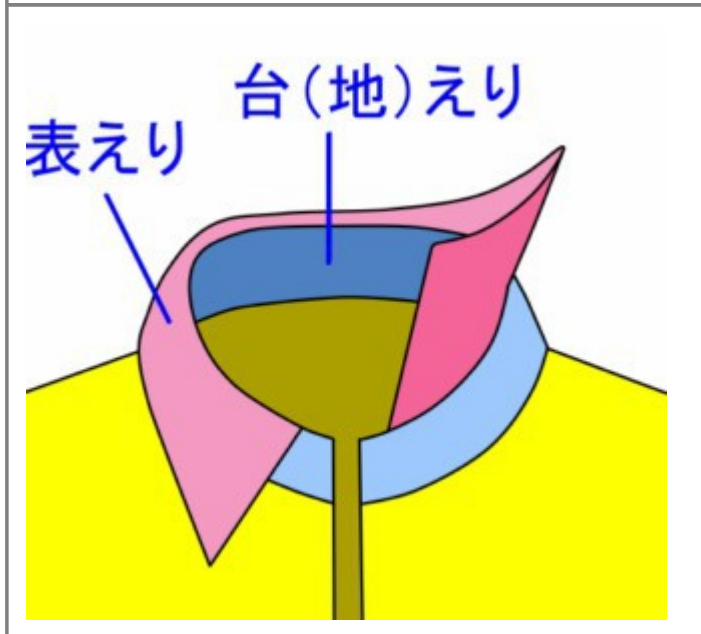
ミシンの縫い目の長さを長くしてください。

詳しくは縫う前の下準備を参照ください。



糸調子を忘れず元に戻してください。

すそをあげてください。



えりを縫ってください。

このような2つのパーツの型紙になります。

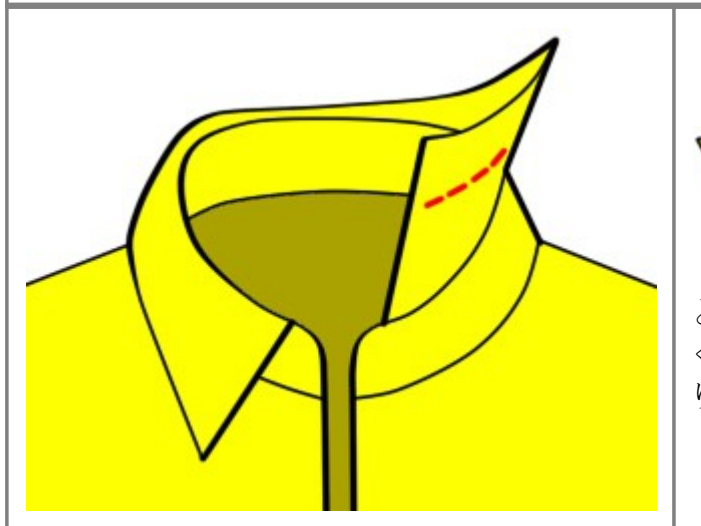
各2枚ずつ裁断してください。

上側を表(上)衿、下の方を台(地)衿と呼びます。



台えりの裏側に隠れるほうの下側の縫い代をアイロンで2mmくらい狭く折ってください。

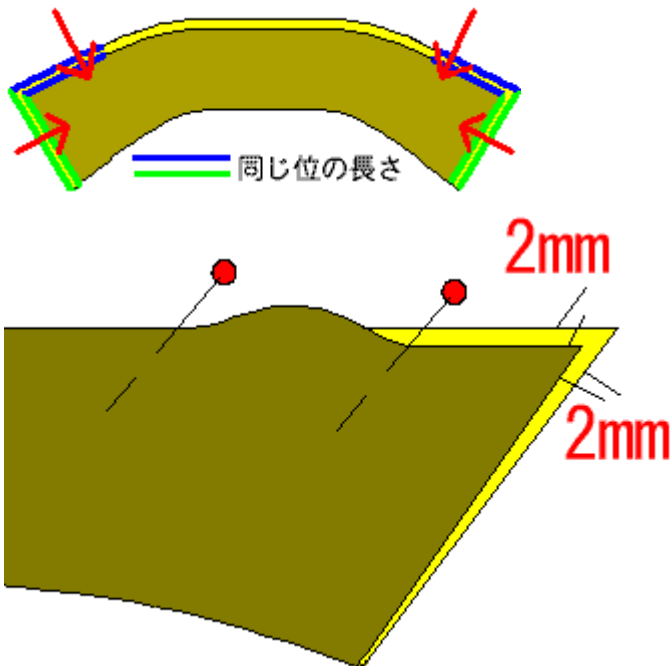
1cmの縫い代だったら8mmくらいで。



どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけてください。



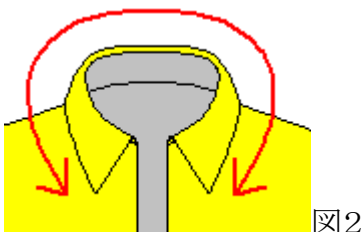
上衿を表同士が内側になるように重ね 1cm幅で縫ってください。



このとき図 A のように「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を 2~3 mm 内側にずらしてまち針をさし、しわが入らないように、縫ってください。

上記で図Bのように表を少し中に入れ込む理由は

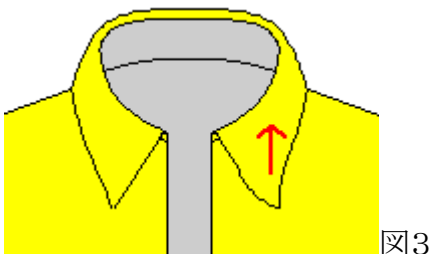
このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブ(図1)と首にそったカーブ(図2)がありますね？

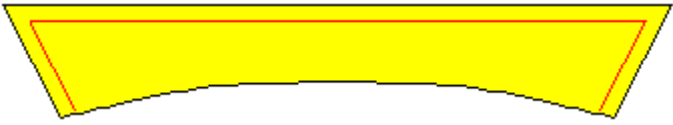
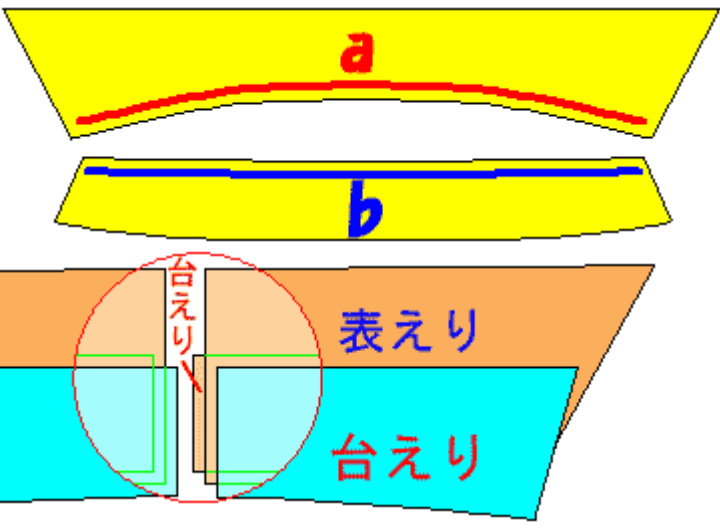
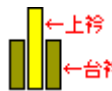
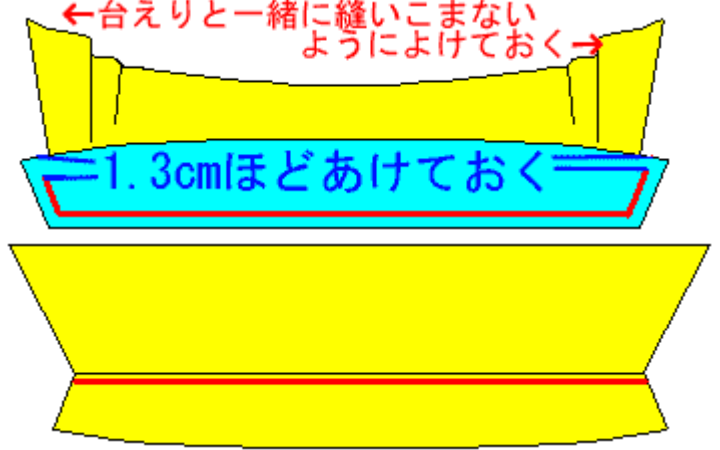
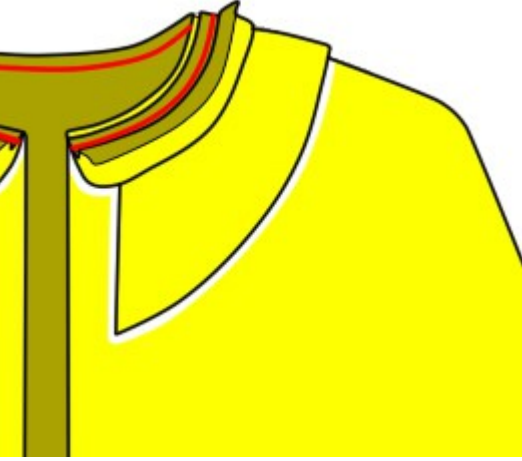


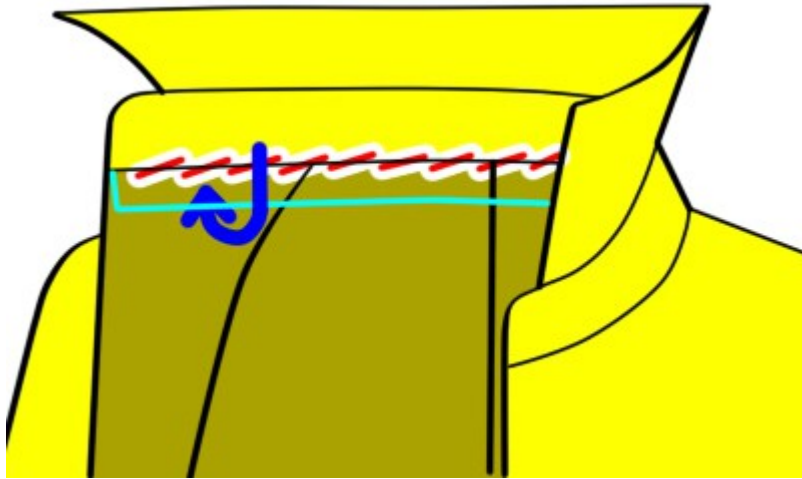
外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。

なのでその分を補うために 2~3 mm 表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節しているのです。

これをしないと図3の右のえりのように引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。



	<p>表に返して5mmの所を縫ってください。</p>
	 <p>2枚の台衿で間に上衿を挟むようにして、重ね上の図の a と b の部分を縫ってください。</p> <p>ちなみに先に折っておいた台えりは、表えりの見えるほうにあわせてください。</p>
	<p>間にはさんだ上衿の両脇を縫いこまないようによけてください。</p> <p>台衿の両サイドも1cm幅で縫ってください。</p> <p>台えりの端1.3mm位は縫わずにあけてください。</p> <p>表に返して赤い線の所を縫ってください。 (表えりと台えりの境から2~5mmのところ) もしくはアイロンで形を整えてください。</p>
	<p>えりの印と、えり首の前中心と肩と、後ろ中心を合わせて1cm幅で縫ってください。</p> <p>表に見える側の縫い代をよけてから、もう一方の台えりの縫い代をえりに縫ってください。</p>



えりの中に、縫い代を入れ込んで、ピンでとめます。

その後手縫いで表に目立たないようにえりを閉じてください。



えりにボタンホールを開けてください。

反対側にボタンを付けてください。

ボタンホールの開け方はミシンによって異なりますのでミシンの説明書をご覧ください。

スナップボタンにしてもいいですね。

このデザインに使いやすい生地

●光沢が欲しい場合

ポリエステルサテン

幅が広く軽いのでおすすめです

●光沢が無い方がいい場合

アムンゼン

肌触りが良く幅も広く、軽くてドレープが綺麗に出ます。

このデザインは布を多く使うのと、歩いたり何か動作した時にいかにさりとなびくかがポイントなので、摩擦力の高い綿生地よりポリエステル等のサラサラした薄手を選ぶのがポイントです。